学校だより

平成２９年１月１０日

かわい

横浜市立川井小学校
校長　　藤田　優

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/

～明けましておめでとうございます～

新年明けましておめでとうございます。平成２９年酉年がスタートしました。元日からここまで、穏やかな晴天の正月らしい日が続きました。酉年だけに、未来に向かって大きく羽ばたこうといった言葉も多く聞かれます。川井小学校におきましても、今年度残りの３か月を充実させ、平成２９年度に向かって更なる飛翔の年としていきたいと考えています。今年もよろしくお願い申し上げます。

「継続可能な取り組みを目指して」

さて、冬休みに入った１２月２６日（月）に、はまっ子と連携してそこに集う子どもたちを対象とした、読み聞かせと昔話の視聴の企画を行いました。本校の学校・地域コーディネーターの方が中心となって企画、運営をしてくださいました。読み聞かせでは、都岡中の先生にお越しいただきました。ご自身の著書を直接、丁寧に読んで聞かせてくださり、子どもたちは食い入るように耳を傾けていました。昔話の視聴では、大きなスクリーンが用意され、「まんが日本昔話」を数話楽しみました。昔テレビで放映されていた作品が収録されたものですが、今ではこのような機会がないと、なかなか子どもたちの目に触れることはありません。

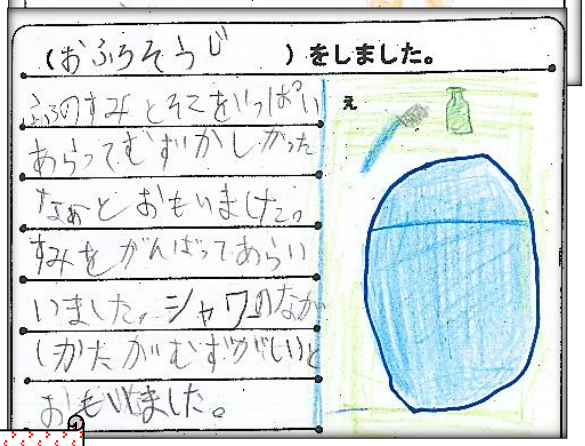
この企画は、都岡中ブロック（都岡中・都岡小・川井小・上川井小）で受けている、文部科学省の補助事業である「学校支援活動事業」の取り組みの一環です。学校・地域コーディネーターを中心に、学校教育の充実・多様化、地域の教育力の向上を図り、学校と地域の連携を推進することをねらっています。すでに同じ事業の取り組みとして、川井地域ケアプラザで、小中学生を対象とした「学習サロン」が都岡中からの発信で行われています。地元の高校生を学校支援ボランティアとしたこの取り組みは、小中学生にとっては「こんな高校生になりたい」と、ボランティアの高校生をロールモデルとして、憧れを抱くような可能性も秘めています。これまで複数回行われており、これから更に広がりをみせていくことを期待しています。

川井小で行った活動は、ドリルや学習プリントを教材とした学習ではありませんが、子どもたちが読み聞かせてもらったり、視聴したりした話を、図書館で本として手にし、読書習慣を身に着け、読書の範囲を広げることにもつながります。昔話の視聴はこれからも継続されます。「今度はどんな話だろう」と、龍にまたがった子どもが出てくるオープニングにわくわくするようになるとよいです。このような素晴らしい活動が広がり、効果を上げるためには、息長く継続可能な形を模索して、着実に定着させていくことが重要です。

我々教職員も、子どもたちの健やかな成長のために工夫・改善を加えながら、粘り強く教育活動に取り組んでいきたいと思います。これからのご支援、ご協力もよろしくお願いいたします。

1年　にこにこ大さくせん

生活科で、家族のにこにこを増やす学習をしています。お家の人がどんなときににこにこになるのかを調べ、自分にできることを考えました。お家の人から「ありがとう」「助かったよ」などの感想をもらうことができ、子どもたちもにこにこになっています。冬休みも続けて活動しているので、休みの間にどんなことをやったのか、子どもたちの話を聞くのが楽しみです。



2年　１年生との交流

昨年、生活科の時間にできるようになった「こま」を、１年生に教えに行きました。ひもの巻き方や回す時のコツなど、一人一人が一生懸命に教えている姿を見て、２年生になってからの成長が感じられました。

１年生がこまのひものまき方をしっかりおぼえてくれたので、よかったです。１年生がもっともっとうまくできるようになってほしいと思います。また１年生といっしょにこまのれんしゅうをしたいです。

さいしょは、１年生はがんばってもできなかったけど、だんだんひものまき方がうまくなっていって、いいなと思いました。はじめはどきどきしていたけれど、だんだんたのしくなっていって、また１年生に教えたいなと思いました。

3年　スーパーマーケット見学

社会科の学習の一環で、地域にあるスーパー「食品館あおば」の見学に行きました。普段来ている場所でも、視点を決めてみると、新たな発見がたくさんありました。

あおばは大きい野菜は半分に切って売っていたり、きれいに商品をならべたりと、たくさんの工夫をしていました。そしてお客さんがいやな気持ちにならないように、うれしい気持ちになるように気を付けて働いていることが分かりました。

食品館あおばは、ねだんの見せ方やふくろのつめかたなど、たくさん工夫していることが分かりました。店員のみなさんが、お客さんのことを考えて工夫しているとは思いませんでした。もっと食品館あおばの工夫を調べたくなりました。

6年「こころの劇場」観劇

12月16日（金）劇団四季のミュージカルを観るために、神奈川県民ホールへ行きました。気温が低く、体が震えるほどでしたが、山下公園でお弁当を食べた後、県民ホールでプロの演技や歌声を楽しみました。

劇団四季の「エルコスの祈り」という劇は、迫力のある演技などがすごかったです。特にすごいなと思ったのは、踊る場面や歌う場面が多かったのに、疲れを見せずにいろいろなことをしていたことです。プロの役者さんたちはすごいなと思いました。また、その時の舞台の情景が色で表されていて、すごく工夫されていました。

「エルコスの祈り」はすごくおもしろかったです。最後はエルコスが消えてしまったけれど、みんな昔よりも元気に明るくなっていたので、私もうれしくなりました。私は、劇団四季の人はみんなを楽しませ、笑顔にすることができるのですごいなあと思いました。私も人を明るく笑顔にすることができればいいなと思いました。

「エルコスの祈り」を観て一番大切だと思ったことは、信じることです。エルコスを裏切ってしまったジョンを、エルコスは優しい心で許してあげました。そのことで、ジョンは自分が犯した罪の重さに気付きました。

信じることは簡単には出来ないけど、信じることで人を助けられることが分かったので、僕も人を信じていこうと思いました。

「エルコスの祈り」を観て、歌声やダンス、行進が揃っていて、劇団四季はすごいなと思いました。いっぱい汗をかいて練習してきたというのが、伝わってきました。

また、照明の技術が素晴らしかったです。登場人物の気持ちや場面に合わせて明るさや色を変えていて、物語の内容がより分かりやすかったです。